



## 👁️👁️ みどころ

「フィルム・ノワール」はアメリカ、フランスが本場だが、今や香港・中国はもちろん韓国でも大人気。前半を刑務所内での描写に費やした本作は、まさに『名もなき野良犬の輪舞』という邦題どおりのフィルム・ノワール。

さらに、ネタバレを気にせずバラしてしまえば、本作は意外にも潜入捜査モノだ。しかし、2年も3年も刑務所に入り、出所した後はヤクザの幹部となり、麻薬取引の情報を握もうとしても、その時点での彼の人格は？人生観は？根は潜入捜査官でも、刑務所内で接触したカリスマ的ヤクザの人間の魅力に触れる中、今やれっきとしたヤクザになってしまっているのでは・・・？

本作ラストの人間模様は興味深い。生き残るのが誰かは偶然だが、生き残った人間の選択は自分自身で決めるもの。さあ、本作が描くそれは、いかに・・・？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

## ■□■カンヌで絶賛！これぞ韓国フィルム・ノワール！■□■

裏社会での金と欲望にまみれた支配を巡る権力抗争をメインとし、そこに男同士の友情と裏切り、さらに警察内部の汚職や癒着を絡めたフィルム・ノワール映画は、アメリカとフランスが中心だったが、それは香港・中国はもちろん韓国でも大人気。2017年の第70回カンヌ国際映画祭で絶賛され、韓国国内でも各種の賞を受賞したのが本作だ。

ヤクザは組織のため、ボスのために殺人等さまざまな罪を犯して刑務所に入り、それによってハクをつけて組に戻り幹部になっていくから、刑務所は一度は通らなければならないところ。しかして、本作前半では、刑務所内でカリスマ的支配権を握り、刑務所長さえ味方に引き入れている、ヤクザ界のNo.1を目指す野心的な男・ジェホ（ソル・ギョング）

と、新米として入所してきた若いけれどもイキが良く、喧嘩がメチャ強い男・ヒヨンス（イム・シワン）の活躍ぶりが描かれる。

ジェホの支配は全国を牛耳るボス、キム・ソンハン（ホ・ジュノ）が入所してきたことによってコテンパンに崩れ、終りを告げたかに見えたが、その後の一発逆転の手際とソンハンをなぶり殺しにする風景は、これぞまさに韓国流！カンヌでも賛否は別れたはずだが、大きな反響を呼んだのは当然だろう。

## ■名優ソル・ギョング×若手イム・シワンに注目！■

本作でジェホを演じたソル・ギョングは、韓国ではじめて観客動員数1200万人を超えた『シルミド/SILMIDO』（03年）（『シネマ4』202頁）で、北朝鮮の金日成主席の首をとるための、韓国の極秘特殊部隊の第三班の班長役を演じて強い印象を残した名優。その後も『ザ・タワー 超高層ビル大火災』（12年）（『シネマ31』169頁）等で彼を見ているが、その演技力はすごい。他方、本作でヒヨンスを演じたイム・シワンは、ソン・ガンホと共演した『弁護人』（13年）（『シネマ39』75頁）で、1981年9月に発生した釜林事件で逮捕・拷問・起訴される学生役を瑞々しい演技で見せていた若手俳優。そのおかげ（？）で『弁護人』は1100万人以上の観客を動員して、韓国歴代8位の成績を記録している。

本作導入部に見る刑務所内では、まず収監されている囚人のくせにとんでもなく威張っている男、ジェホに注目！これは刑務所内でのタバコの利権を巡ってジェホが最高の実権を握っているためらしいが、私には本作が説明するそこらあたりのシステムがイマイチよくわからない。しかし、ジェホは現場の刑務官たちはもちろん、刑務所長ともツーツーの仲になっているようで、何でもやりたい放題らしい。ある日のパーティ（？）では「最後の晚餐」のイエス・キリストもどきの支配者ぶりを見せていたが・・・？他方、新米として入ってきたその刑務所内で、力自慢の大男との「どつき合いゲーム」に挑むヒヨンスの姿にはビックリ。平手打ちの勝負なのに、先に拳で打ったのはヒヨンスの方ではないかと思うのだが、そのごまかし方も堂に入ったもの。また、その暴れっぷりはスリムで小柄な身体に似合わずお見事だが、彼は一体何の罪で刑務所に入っているの？

本作導入部では、そこらあたりが伏せられたまま面白い権力闘争と喧嘩風景が展開され、刑務所内部の腐敗ぶりも明らかにされていく。そして、一方ではマフィアの中でNo.2の地位まで登りつめているジェホが、出所後はNo.1の座を目指すため日々研鑽を積む姿が映し出され、他方では面白いキャラをジェホに見込まれて、ジェホのことを「アニキ」と呼ぶまでになったヒヨンスの成長が映し出されていく。しかし、どうみても、ヒヨンスの入所には大きな秘密がありそうだが・・・。

## ■ヒヨンスは何と潜入捜査官！■

マフィアと潜入捜査官の対決をテーマにした映画の代表が『インファナル・アフエア』三部作（03年～05年）（『シネマ3』79頁、『シネマ5』336頁、『シネマ7』223頁）だが、それを観れば、潜入捜査がいかに難しいかわかる。しかして、ヒヨンスは何の罪で刑務所に入っているの？フラッシュバックの手法が多用される本作では、それは意外にもゲッチ上げの罪。つまり、彼は潜入捜査官であることが明らかになるのでそれに注目！

もっとも、『インファナル・アフエア』では、潜入捜査に至るまでのストーリーだけで1本の映画になっていたが、本作でヒヨンスが警察官としての出世を諦めて犯罪者になり、刑務所に入るといふ損な役割を引き受けたのは、チーム長の女性チョン（チョン・ヘジン）から命じられたためだ。そのストーリーは一面ではユーモラスな展開を見せ、他面では病気の母親を想う彼の強い肉親の情が見せ所になるので、それにも注目！ヒヨンスの母親は腎臓移植が必要だが、それには多額の費用がかかる。すると、警察官の安月給では、その費用の負担は・・・？ヒヨンスの母親を巡って、本作前半ではそんな物語が展開し、後半では母親が交通事故で死亡してしまうというハプニングの中で、その葬儀全般を仕切ってくれたジェホに対するヒヨンスの信頼の絆が深まっていくストーリーになる。

ちなみに、本作では刑務所の中からの電話でヒヨンスが頻りにチーム長のチョンと連絡を取っているが、これは如何なもの？また、ヒヨンスが腕にはめている腕時計はかなり大型で頑丈そうだが、ひょっとしてこれは通信機能付き？しかし、そんなものを出所後も堂々とヤクザの組織の中でつけていて大丈夫なの？チェックされないの？そう考えると、これも如何なもの・・・？

## ■□■ワルはいくらでも！上には上が！■□■

本作前半の舞台は刑務所という密室内だから、そこに新しく入ってきた全国のヤクザのボスであるキム・ソンハンとジェホとの対決が大きなポイントになっていたが、本作におけるワルの総元締めはソンハンではなく、オセアン貿易のコ・ビョンチョル会長（イ・ギョンヨン）。彼は若頭のビョンガブ（キム・ヒウォン）らを使って、ロシアのギャングとの麻薬取引を展開しているらしい。しかして、チョンがヒヨンスを潜入捜査官として刑務所に送り込み、ジェホと接触させたのは、出所後ヒヨンスがジェホとともにビョンチョル会長の下に入り、そこで情報を集め、その組織を一網打尽にするためだ。しかし、ビョンチョルは疑り深い性格ゆえに絶対に本心を出さない男、それはジェホも同様だ。本作中盤ではそんな中年男同士の老獪な猜疑心のぶつかり合いが見物だから、それに注目！

さらに、心理戦として面白いシーンは、第1に絶対に他人を信用しないことを信条とするジェホが、ヒヨンスに対して「野良犬を拾って立派な忠犬になるように手間をかけて育てていたら思った以上に育ってしまって、主人に噛み付くようになったらどうすればいい？」と問いかけて、「こっちが食われないうちに処分してしまうことだ」と自ら答えるもの。第2は、ヒヨンスのことを信頼しつつも常にどこか疑いの目を向け続けるジェホに対して、

ヒヨンスが「もう俺を信じるとは言わない。だが、俺はあんたを信じてる」と切り返し、意外にも率直に自分の心情を露呈するシーンだ。その最たるものは、自分が潜入捜査官であることを自発的にジェホに告白することだが、既にヒヨンスが潜入捜査官であることの証拠を掴んでいたジェホがヒヨンスからのそんな告白を聞くと、ジェホのヒヨンスに対する信頼は・・・？さらに、猜疑心の塊のようなビョン Chol も、単純パカのビョン Gab より、腹の中は容易にわからないものの、さまざまな実績で忠誠を尽くすジェホとヒヨンスを見ている中で少しずつ彼らを信じるように。

しかして、遂にある日ビョン Chol とロシアのギャングとの大規模な麻薬取引が決まり、ヒヨンスはそれをチョンに伝えることに成功したが・・・。

## ■□■根は潜入捜査官だが今の実態は？これからは？■□■

根は正義を目指す熱血刑事であっても、15年間もヤクザ担当の刑事をして利権にありついていると「警察じゃけえ、何をしてもええんじや」とほざくような刑事になってしまうことは、役所広司が主演した『孤狼の血』（18年）を見れば明らかだ。すると、根は潜入捜査官でも、2年も3年も刑務所に入り、そこでの習慣とジェホを中心とするヤクザとの人間関係が沁み込み、言葉遣いから行動まですべてヤクザそのものになってきたヒヨンスは、出所後ビョン Chol 会長のもとでジェホと共に働いていけば、次第にその方が居心地がよくなってしまふのでは・・・？潜入捜査官としてチーム長のチョンへの報告を続けつつ、ジェホとの信頼関係と人間的絆を深めていくヒヨンスの姿を見ていると、本作ラストからクライマックスにかけてはそんな興味が強まってくる。

ヒヨンスがチョンに流した麻薬取引の情報は、ヒヨンスとチョンの思惑を大きく外れ、ヒヨンスが潜入捜査官であることを知っていたジェホが仕掛けたガセ情報！それによってチョンは大恥をかかされたが、そんなことにめげることなく、次の仕掛けを放つチョン。そんな中、遂にビョン Chol 会長を倒し、麻薬取引の利権を一手に掌握したジェホにはどんな心境の変化が・・・？そんな点に焦点を当てた本作ラストは少し安直な展開になっている面もあるが、ストーリーとしては面白い。しかして、そこに乗り込んできたチョンとその部下たちとの間で展開される最後の銃撃戦の勝者は誰？死亡するのは誰？そして生き残るのは誰？

警察はチョンが死亡しても組織として永久に残るが、ビョン Chol やジェホは個人業者だから、いくら栄華を誇っていても死んでしまえばおしまいだ。すると、潜入捜査官たるヒヨンスは・・・？もし、彼が潜入捜査官としてのプライドも使命感も捨ててしまい、ヤクザになり切っているとすれば、そこで彼はいかなる行動を？そして、もしヒヨンスが1人生き残ったとすれば、ヒヨンスがこれから歩むべき道は？本作ラストに見るそんな展開をじっくり楽しみたい。

2018（平成30）年6月7日記